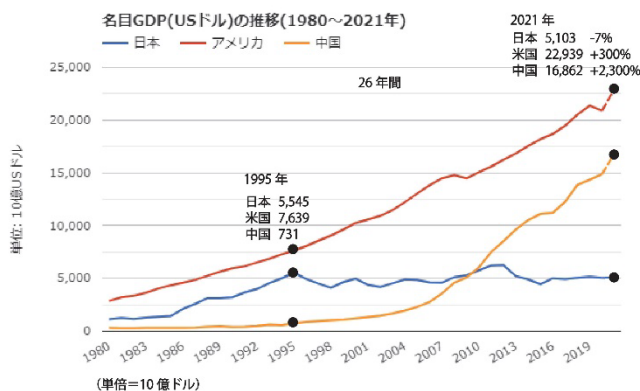


平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 2月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。



これは、先月号で貼り付けを忘れたグラフである。
GDP の成長だけが、経済でもなく、ましてや人生でもない。無いけれど、安倍元内閣はアベノミクスなる政策で 600 兆円を目指して号令を掛けた。その通り伸びようとすると、財務省が財政健全化などと分からぬことを言い、消費増税圧力を内閣にかけた。せっかくの灯を消す事になった。2019 年 2020 年と相次いで消費増税をやって、やっぱり 500 兆円の座に戻ってしまった。GDP の横ばいは、要はそういう事である。

さて、『ひとは、必ず正しい方向に流れる』と今も思っている。今は、過去に苦しい思いをした DNA を引き継いだ人たちが世界を支配している。残念ながら、その DNA は苦しい過去を持っているが故、自らの心地良さを求める手法に、そのために苦しむ人たちがいても、平気な人たちだ。歴史的に、かつては土地がすべての富を生み出していた時代、彼等は土地を奪われ追放された。自らの土地を奪われ、世界各地に離散した DNA は、自らが生延びるために、さまざま知恵

を絞った。

その結果、貨幣というものに注目し、貨幣を支配すれば世界を支配できると考えた。時は長く流れ、彼らの支配を強化する大きなきっかけは、ナポレオンが活躍した英仏戦争だった。この英仏戦争を利用し、英国に多額の融資をした結果、英国債の 6 割を手中に収め、その結果英国の領主になった。同時に、貨幣で支配するため、彼らが壊さなければいけない価値観が、宗教と土地だった。ローマを骨抜きにし、英仏戦争の後フランスの革命を仕掛けたのは、土地所有に根付く貴族の崩壊だった。以降、貨幣の多寡以上の価値は世界から消えた。その末、世界各国の債権者になった彼らは、その国々の造幣権を手中に収めるため、中央銀行制度を法的な裏付けを元に作成し、見事に成功した。その富を雪だるま式に増幅させるために、世界中の経済を発展させてきた。そのための民主主義制度である。経済が発展すれば、益々貨幣に対する需要は高まり、その集金機能を第二次世界大戦以後、英国から米国に移した。

ひとつ、変な国が極東にあった。

この国は、かつて非常に発達した文化・文明をもたらした民族が棲み、その民族が、移動して彼らの土地周辺に移り住み、その文化・文明を施した。忽然と現われ、そして忽然と消えた。その後、アッシリアに彼らは滅ぼされ、彼らの DNA を持った多数の人間が、『東方に理想の国家がある』と民族を上げて大移動した国だった。

長らくこの国は、その DNA を持つ人間を基督教の普及と称して、内部から崩壊させようとしても無理だった。織田信長という戦国時代を制した覇者は、欧州の文明を取り入れても、自らは基督教の国内布教には消極的で、その覇者の死後天下を引き継いだ豊臣

秀吉という、人たらしに長けた人物は、基督教の布教の本質を看破し、まったく、その布教を許さなかった。秀吉死後、謀略・知略に長けた徳川家康という人物は、とうとう国自体を閉ざす鎖国制度を作り、長崎の出島に限定し、蘭国のみ接触を許し、その他の一切の外国からの侵入を許さなかった。奢れる者は久しからずの原則通り、260年もの時が流れると、風流を極めた泰平・文化を謳歌していたが、再三布教ではなく直接的な武力で迫る恫喝に屈し、とうとう我が彦根藩主井伊直弼が、横浜を開港した。

開港すると、諸外国人が遣って来た。尚、慣習通り遙か最南端、薩摩からやって来ていた藩主の行列に、異国にもかかわらず、我がもの顔で騎乗にて散策を楽しむ4人の英国人が乗り入れた。長らく特権階級として社会に君臨してきた武士階級の、しかも最も鮮烈なる気高さを誇る薩摩藩士は、その4人の行為を許さなかった。当時、大名行列という、この特権階級の行進は、自らの威容を周囲に見せつける儀式として神聖なものだった。この神聖さを打ち破る傍若無人ぶりを許す筈がない。行列の中ほど藩主の乗る籠を護っていた藩士、奈良原喜左衛門が走り出て一太刀を浴びせた。客観的には、異国の慣習に疎い者が受けた悲劇であるが、英国人の奢りが招いたとも言える。その意味で、主観的には天晴れのひと言である。

そもそも、この横浜開港の切掛けになった俗に呼ぶ黒船来航の時、その時の一隻に星条旗が飾られていた。けれど、この条約の後、米国の思惑は、思惑通りには進まなかった。何故なら、当時は英国等に依る、印度・中国等の侵略は武力で脅せば亜細亜人は怯む、が通説になっていた。なっていたが、知略に長け、気高い精神を持つこの国の民は、他の亜細亜の国ほど、そう簡単にはいかなかった。だから、この星条旗は持ち返った。しかし、この星条旗がまた日本の前に姿を現す機会があった。それは、大東亜戦争・太平洋戦争敗戦後のポツダム宣言受諾の調印が行われた、戦艦ミズーリ号に、再びこの時の星条旗が持参された。ここに彼らの執念が感じられると同時に、計画の成

就迄の時間の長さが窺い知れる。

それ以降、米国と我が国との関係性は、御存知の通りだが、この瞬間に画期的な事柄が起こった。現在世界の2国を除く国の中央銀行は、彼等配下の銀行による出資の民間銀行になっている。民間銀行が、その国の貨幣をPrintする権利を持っているという歪さである。この中央銀行の支配が、根本的な支配に繋がっている。

当然である。これを知略で逃れ、日本の中央銀行である日銀株は、財務省が55%を持っている。この事は、民間企業で言えば、実質政府の子会社的な位置づけになる。国家としては支配を受けているが、円の造幣権に於いては独立を保っている。残る一行は中華人民共和国の人民銀行である。人民銀行は、今後彼らの融資金が入らざるを得ない事態が発生する事になる。それが、米中戦争の見えざる根本である。

日本政府は、外貨準備は米国債に限られている。今後2025年金本位制に戻る、その過程において日本政府はGoldを購入する事は米国に依って禁じられている。米国に依ってということは、過去に苦しい思いをしたDNAを引き継いだ連中に依ってという事とイコールである。長く書いて来た貨幣による支配の現状は、今後益々強くなり、成長なき時代に入れば、固定化されていく。

つまり、社会主義体制というのは、紛れもなく、少数に依る大多数支配の体制である。その極めて少数が多数を支配するために、非人道的な事が行われる。この政治による社会体制に抗って、暮らし易い地域社会を形成するには、Communityが必要で、そのCommunity間の交流が不可欠になり商売のネタとなる。

で、実はこの社会スタイルは我が国に於いては縄文時代に経験している。もちろん文化的にも現代に通ずるレベルで発展している。1万年間続いた歴史的実績である。

有限会社アルファー

吉田清一郎